

春が来た

作詞 高野 辰之
作曲 岡野 貞一

春が来た 春が来た どこに来た。
山に來た 里に來た、
野にも來た。

花がさく 花がさく どこにさく。
山にさく 里にさく、
野にもさく。

鳥がなく 鳥がなく どこでなく。
山で鳴く 里で鳴く、
野でも鳴く。

※明治43年7月発行の「尋常小学読本唱歌」に掲載
されました。

2 1

朧 おぼろ 月夜

作詞 高野 辰之
作曲 岡野 貞一

菜の花畠に入日薄れ、
見わたす山の端 霞ふかし。
春風そよふく 空を見れば、
夕月かかりてにおい淡し。

里わの火影も、森の色も、
田中の小路をたどる人も、
蛙のなくねも、かねの音も、
さながら霞める 朧月夜。

※岡野、高野両氏は、東京音楽学校(現在の芸大)の
教授だったそうで、このコンビは「春が来た」「春の
小川」「故郷」「紅葉」など、数々の名作を残してい
ます。



クリップアート:「月」で検索

●ページ設定

用紙サイズ: A4 横

余白: 上下 15mm、左右 10mm、とじしろ 5mm

ヘッター・フッター15mm

(奇数・偶数ページ別指定)

文字方向: 縦書き

●段組

2段、段の幅 23 字

文字

フォント: MS 明朝

サイズ: 題名 14pt、その他 10.5pt

仲よしこみち

作詞 三苦 やすし
作曲 河村 光陽

仲よし小道はどここの道

いつも学校へみよちゃんと

ランドセル背負(しよ)って 元氣よく

お歌をうたって 通う道

仲よし小道はうれしいな

いつもとなりの みよちゃんと

にこにこあそびに かけてくる

なんなんの花 匂う道

仲よし小道の 小川には

とんとん板橋 かけてある

仲よく並んで 腰かけて

お話するの よたのしいな

3 4

鯉のぼり

作詞 不詳
作曲 不詳

薨の波と雲の波、

重なる波の 中空を、

橋かおる 朝風に、

高く泳ぐや、鯉のぼり

開ける 広き其の口に、

舟をも 吞まん様見えて、

ゆたかに 振う尾鰭には、

物に 動ぜぬ姿あり。

百瀬の 滝を登りなば、

忽ち 竜になりぬべき、

わが身 に似よや 男子(おのこ)と、

空に 躍るや 鯉のぼり。

仲よし小道の 日ぐれには
母さまお家で お呼びです

さよならさよなら また明日

お手手を ふりふり さようなら

※河村光陽さんは 赤い帽子 白い帽子「うれしいひなまつり」かもめの水兵さん「ゲッドバイ」船頭さん「早起き時計」サンゴのひとりごと」など、数多くの童謡を残しています。



クリップアート：「road」で検索

※こいのぼりの歌は、皆様ご存じの通り2つあります。やねより たかい こいのぼり…」が「こいのぼり」で、薨の波と雲の波…」が「鯉のぼり」です。「こいのぼり」は昭和6年、鯉のぼり」は大正2年に作られています。



クリップアート：「carp」で検索

茶摘み

作詞 不詳
作曲 不詳

夏も近づく八十八夜、
野にも山にも若葉が茂る。
あれに見えるは茶摘じゃないか。
あかねだすきに菅の笠。」

日和つづきの今日此頃を、
心のどかに摘みつつ歌う。

摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ。
摘まにや日本の茶にならぬ。」

※文部省唱歌「茶摘」は、明治45年の尋常小学唱歌(三)で発表されました。



クリップアート：「tea」で検索

6 5

夏は来ぬ

作詞 佐佐木信綱
作曲 小山作之助

うの花のおう垣根に、時鳥(ほととぎす)
早もきなきて、忍音もらす 夏は来ぬ

さみだれのそそぐ山田に、早乙女が
裳裾(もすそ)ぬらして、玉苗(うらな)うる 夏は来ぬ

橘のかおるのきばの窓近く
蛍とびかい、おこたり諫むる 夏は来ぬ

棟(あうち)ちる川べの宿の門遠く、
水鶏(くいな)声して、夕月(ゆづしき) 夏は来ぬ

さつきやみ、蛍とびかい、水鶏(くいな)なき、
卯の花(うの花)さきて、早苗(うゑわた)す 夏は来ぬ



クリップアート：「summer」で検索

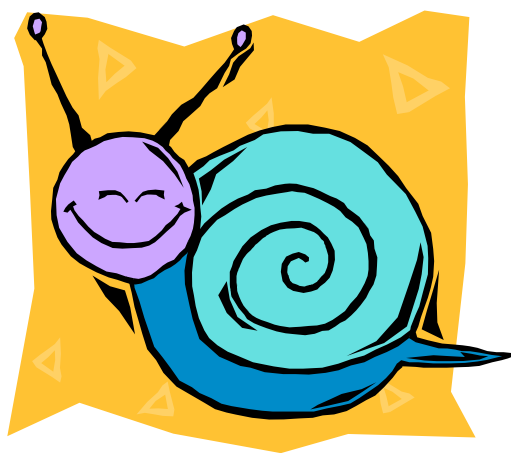
※作曲の小山先生は、文部省音楽取調掛第二回卒業生で、東京音楽学校で教鞭をとっておられたそうです。敵は幾万」は有名ですね。高校野球で。作詞の佐佐木先生は、軍歌もたくさん書いておられます。勇敢なる水兵」とかですね。

かたつむり

作詞 不詳
作曲 不詳

でんでん虫々 かたつむり、
お前のあたまはどこにある。
角だせ槍だせ あたまだせ。
でんでん虫々 かたつむり、
お前のめだまはどこにある。
角だせ槍だせ めだまだせ。

※明治44年5月発行の 尋常小学唱歌(二)に掲載されました



クリップアート：「かたつむり」で検索

8 7

海

作詞 不詳
作曲 不詳

松原 遠く 消ゆるところ
白帆のかげは 浮かぶ
ほしあみ 浜に 高くして
かもめは 低く 波にとぶ
見よ 昼の海 見よ 昼の海

島山 やみに しるきあたり
いさり火 光 あわし
よる 波 岸に ゆるくして
うら風 かろく いさご 吹く
見よ 夜の海 見よ 夜の海

※同じ文部省唱歌ですが、うみはひろいな おおきいな... というのが うみ で、松原 遠く 消ゆるところ... というのが 海 です。で、これは 海



クリップアート：「sea」で検索

です。大正2年5月発行の 尋常小学唱歌(五)に掲載されました。

揺籃のうた

作詞 北原 白秋
作曲 草川 信

ゆりかごの歌を
かなりやがうたうよ
ねんねこねんねこねんねこよ
ゆりかごの上に
びわの実がゆれるよ
ねんねこねんねこねんねこよ

ゆりかごの つなを
木ねずみがゆするよ
ねんねこねんねこねんねこよ
ゆりかごの夢に
黄色い月がかかるよ
ねんねこねんねこねんねこよ

10 9

十五夜お月さん

作詞 野口 雨情
作曲 本居 長世

十五夜お月さん
御機嫌さん
婆やお暇(いとま)とりました

十五夜お月さん
妹は

田舎へ貰(も)られて ゆきました

十五夜お月さん
母(かか)さんに
も一度わたしは逢いたいな。

※ばあやを雇っていたくらいだから、裕福な家庭だったのでしょう。でも、ばあやはお暇をとりました。もういません。妹は田舎にもらわれていきました。

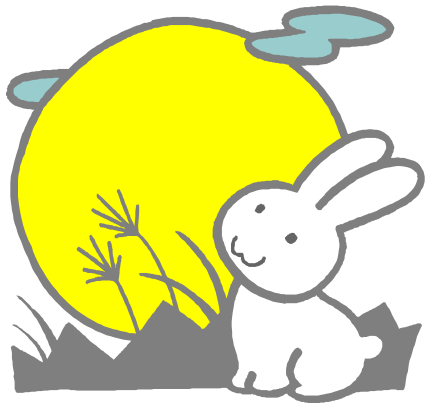
ゆりかごの歌を
かなりやがうたうよ
ねんねこねんねこねんねこよ

※この場合、「揺籃」は「ようらん」ではなく、「ゆりかご」と読みます。要するに「ゆりかごのうた」ですね。詞は北原白秋さんで、大正10年8月の「小学女生」に発表されました。曲がついたのは翌11年の6月ごろだそうです。



クリップアート：
「ベビーベッド」で検索

親類に預けられたというのではなく、もらわれていたのです。そして、主人公は、もういちど母さんに逢いたいと歌います。



クリップアート：「満月」で検索

牧場の朝

作詞 杉村 楚人冠
作曲 船橋 栄吉

ただ一面に立ちこめた
牧場の朝の霧の海。
ポプラ並木のうつすりと
黒い底から、勇ましく
鐘が鳴る鳴る、かんかん。

もう起出した小舎小舎（こやこや）の
あたりに高い人の声。
霧に包まれ、あちこちに、
動く羊の幾群（いくむれ）の
鈴が鳴る鳴る、りんりんと。

今さし昇る日の影に
夢からさめた森や山。
あかい光に染められた

12 11

紅葉（もみじ）

作詞 高野 辰之
作曲 岡野 貞一

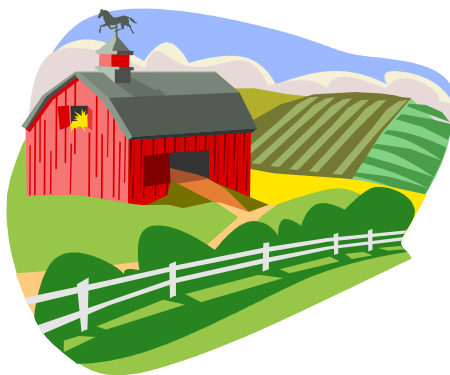
秋の夕日に照る山紅葉（もみじ）、
濃いも薄いも数ある中に、
松をいろいろどる楓（かえで）や蔦（つた）は、
山のふもとの裾模様。

溪（たに）の流に散り浮く紅葉、
波にゆられて離れて寄って、
赤や黄色の色様々に、
水の上にも織る錦。

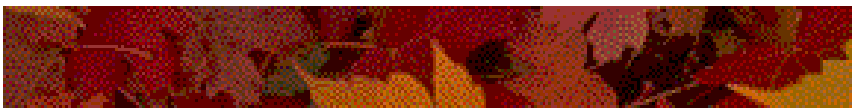
※明治44年6月発行の「尋常小学唱歌（二）」に掲載
されました。色彩感あふれる名曲でございます。

遠い野末に、牧童の
笛が鳴る鳴る、びいびいと。

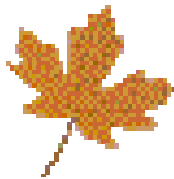
※昭和7年12月発行の「新訂尋常小学唱歌（四）」に
掲載されました。作曲の船橋先生は東京音大の教授
であつたそうです。作詞の杉村楚人冠さんは当時
朝日新聞の記者だったそうで、明治43年に岩瀬牧場
に取材に行った際に詩をお作りになったそうです。



クリップアート：「牧場」で検索



クリップアート：「秋」で検索



クリップアート：「秋」で検索

故郷(ふるさと)

兎追いしかの山、
小鮒釣りしかの川、
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷。

作詞 高野 辰之
作曲 岡野 貞一

如何にいます 父母、
恙なしや友がき、
雨に風に つけても、
思いいずる 故郷。

こころざしをはたして、
いつの日にか帰らん、
山はあおき 故郷。
水は清き 故郷。

14 13

お正月

もういくつねると お正月
お正月には 凧あげて
こまをまわして 遊びましょう
はやく来い来い お正月

作詞 東くめ
作曲 瀧 廉太郎

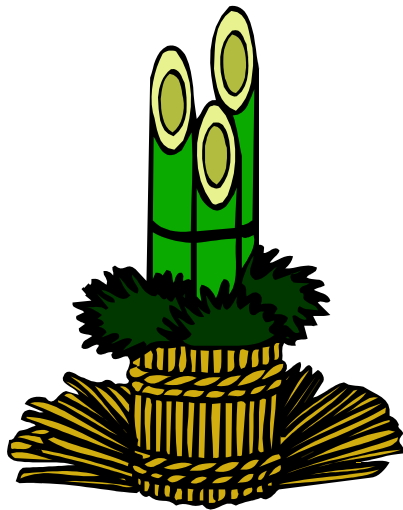
もういくつねると お正月
お正月には まりついて
おいばねついて 遊びましょう
はやく来い来い お正月

明治34年7月に共益商社書店が発行した 幼稚園唱歌「に掲載されました。

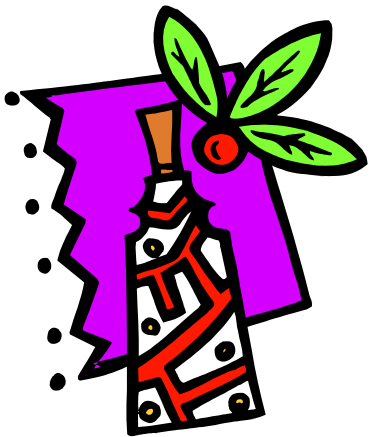
※大正3年6月16日発行の 尋常小学唱歌 第六学年用」に掲載されました。岡野高野の名コンビによる名曲でございます。おふたりの故郷にはそれぞれ 故郷」の歌碑が建てられているそうです。



クリップアート：「風景」で検索



クリップアート：「正月」で検索



クリップアート：「羽子板」で検索

一月一日

作詞 千家 尊福
作曲 上 真行

年の始めの例(ためし)とて、
終なき世のめでたさを、
松竹たてて門(かど)ごとに
祝(いお)う今日こそ 楽しけれ。

初日のひかりさしいでて、
四方(よも)に輝く今朝のそら、
君がみかげに 比(たぐ)えつつ
仰ぎ見るこそ 尊とけれ。

※明治26年8月12日、文部省告示第三号として、
祝日大祭日歌詞並(ならびに)楽譜」というのが官
報に掲載、公布されました。掲載されたのは 君が
代」勅語奉答」二月一日」元始祭」紀元節」神
嘗祭」天長節」新嘗祭」で、後に制定された 明

16 15

冬の夜

作詞 不詳
作曲 不詳

燈火ちかく衣縫う母は
春の遊びの楽しさ語る
居並ぶ子どもは指を折りつつ
日数かぞえて喜び勇む
囲炉裏火はとろとろ
外は吹雪

囲炉裏のはたに縄なう父は
過ぎしいくさの手柄を語る
居並ぶ子どもはねむさ忘れて
耳を傾けこぶしを握る
囲炉裏火はとろとろ
外は吹雪



クリップアート：「winter」で検索

※明治45年発行の「尋常小学唱歌」第三学年用に掲載されていたそうです。



クリップアート：「正月」で検索

治節」を加えて、儀式唱歌」と呼ばれています。太平洋戦争終結まで、50年以上も学校で歌わ(さ)れていたわけです。この中で、こんにちまで歌い継がれているのは 君が代」と、この「二月一日」だけです。

どこかで春が

作詞 百田 宗治
作曲 草川 信

どこかで「春」が
生れてる、
どこかで水が
ながれ出す。

どこかで雲雀が
啼いている、
どこかで芽の出る
音がする。

山の三月
東風吹いて
どこかで「春」が
うまれてる

18 17

我は海の子

作詞 文部省唱歌
作曲 文部省唱歌

われは うみの こしらなみの
さわぐ いそべの まつばらに
けむり たなびく とまやこそ
わが なつかしき すみかなれ
うまれて しおに ゆあみして
なみを こもりの うたときき
せんり よせくる うみの きを
すいて わらべと なりにけり
たかく はなつく いその かに
ふだんのはなのかおりあり
なぎさのまつに ふく かぜを
いみじきがくと われは きく

※大正12年3月、
「小学男生」で詩が発表されまし
た。



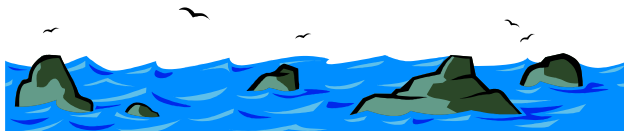
クリップアート : 「spring」 で検索

じょうよの ろかい あやつりて
ゆくて さだめぬ なみまくら
ももひろちひろ うみのそこ
あそびなれたる にわひろし

いくとせ ここに きたえたる
てつより かたき かいなあり
ふくしおかげに くらみたる
はだは しゃくどう さながらに

なみに ただよう ひようざんも
きたらば きたれ おそれんや
うみ まきあぐたる たつまきも
おこらば おこれ おどろかじ

いでおおふねを のりだして
われは ひろわん うみのとみ
いでぐんかんに のりくみて
われは まもらん うみのくに



クリップアート : 「sea」 で検索

恋はやさし野辺の花よ

訳詞 小林 愛雄

作曲 フランツ・スッペ

恋はやさし野辺の花よ
夏の日のもとに 朽ちぬ花よ
熱い思いを胸にこめて
疑いの霜を冬にもおかせぬ
わが心の ただひとりよ

胸にまことの 露がなけりや
恋はすぐしぼむ 花のさだめ
熱い思いを胸にこめて
疑いの霜を冬にもおかせぬ
わが心の ただひとりよ

※スッペ(1819-1895)はウィーンで活躍した作曲家で、たくさんのオペレッタを残しています。中でも自ら最高傑作という「ボッカチオ」は、1879年に初

20 19

宵待草

作詞 竹久 夢二

作曲 多 忠亮

待てど暮らせど 来ぬ人を
宵待草の やるせなさ
今宵は月も 出ぬそうな

暮れて河原に 星一つ
宵待草の花が散る
更けては風も 泣くそうな

※竹久夢二は明治17年岡山県生まれ。大正時代に活躍した画家・詩人でございます。大正3年、日本橋にキャラクターショップ「港屋 絵草子店」を開き、その絵が全国の女学生に大人気を博したそうです。

「宵待草」は夢二の代表作と言われている歌で、大正7年に楽譜が発売されるや、これまた大流行した模様です。作曲は、多 忠亮（おおの ただすけ）さ

演され、日本でも翻訳上演されて人気を博したそうです。恋はやさし野辺の花よ」は、この劇中歌でございまして、もともとはソプラノのようですが、田谷力三さんや榎本健一さんもお歌いになっています。



クリップアート：「flower」で検索

んで、バイオリニストだったそうです。また、夢二が作ったのは1番だけで、2番は後に西条八十が加えたものだそうです。



クリップアート：「grass」で検索